



とまのり人

18

絵は趣味であり薬、^{メデイン}実学の精神で社会に貢献

「優れた美術品は個人で楽しむだけでなく、人類
全ての共有財産」との考えから、07年秋、40年来蒐
集した美術品約千点により蕪崎大村美術館(山梨県)
を故郷に開設、1年後には美術館を蕪崎市に寄贈し

学)北里研究所名誉理事長
学)女子美術大学理事長
日本学士院会員

おむら さとし
大村 智さん

た。日本で唯一、女流画家を展示の中心に据える。
カレンダーの切り抜きを家に飾ってくれた母の影
響から、幼い頃より絵に親しみ、展覧会があれば1
人でどこへでも出掛けた。研究者となり夜考え込ん
で眠れなくなっても、絵を眺めていれば自然と心が
休まる。荻太郎、鈴木信太郎、堀文字を最も好み、「絵
は私の趣味であり、薬」という。開発した薬品のひ
とつは世界中の1億3千万人が服用する。講演料や
特許報奨金等はたちまち美術品に変わってしまった。
縁あって97年より女子美術大学の理事長に就く。
大学は2000年に百周年、今年百周年を迎え、
記念行事が目白押しである。百周年では5万人の同
窓生をまとめ上げた。百周年では教職員と卒業生
を結束し、行事を成功させ飛躍の年にしたいという。
「皆それぞれよい才能を持っている。それらが活か
されるよう方向性を示し、よりよい大学にしたい」。
数々の要職により国内外を奔走する毎日だが、肩
書きにまたひとつ青木繁「海の幸」会理事長が加わ
った。近年、幕末の思想家・横井小楠を研究しつつ、
座右の銘「生ききる」ことを目指し、世の中の役に
立つ実学の精神を日々実践している。

撮影：川島保彦